

先発医薬品が好き



ワッシーは、バッグや財布がブランドものかどつか、まったく関心はない。が、薬だけは、別だ。メーカー品が好きだ。

薬には、メーカー品とも言える先発医薬品と、その特許期間が済んでコピー化されるジェネリック薬品(後発医薬品)がある。後者は、先発医薬品と同等の有効性がある

有効性は同じとされるが

知障害だけではない。ねむけ、めまいや意識消失、さらに、ふらつきや歩ぎにくさといった脳や神経の症状も、よく使われる薬の作用で起きることがある。で、患者さんがどんな薬をのんでいたか知る必要が出てくる。

が、副作用の出やすい高齢者のお薬手帳には、見たことのない薬の名前が盛りだくさんだ。その多くは、ジェネリック薬品である。

医師は、専門を問わず、先発医薬品なら大概の名前は知っている。が、ジェネリック薬品名は馴染みがない。ひとつひとつを詳しく調べなければならぬのだ。

ところで、日本政府は、このジェ

ジェネリックは「疲れる」

ネリック薬品の普及率を上げようと必死になっている。特許の切れた先発医薬品を全部ジェネリック薬品に替えれば、医療費が年間約1・5兆円も抑えられる。2015年の普及率は56・2%で、20年までに80%以上にする方針だ。ちなみにアメリカは90%以上である。

となれば、医者もあまりワガママを言えない。メガネが頼みのワッシーも、文句も言わずに、今日も目をしばたたかせながらお薬手帳を調べている。ジェネリック薬品の名前もおぼえようと努力している。ウーム。

(石黒修三 しいしくろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住)